

1. 炎症性腸疾患治療センター (IBD センター) を新設しました
・教えて!この言葉「PSA (前立腺特異抗原)」
・診療科レポート「歯科口腔外科」
2. 「小さな体に寄り添い守る。最前線で闘う小児医療の現場に光を」クラウドファンディングプロジェクト目標金額達成のご報告
・ナディック通信
3. 名大病院臨床研修医のご紹介
・ミニニュース

4. JCIの最高経営責任者 ボーラ・ウィルソン氏が名大病院を訪問
・特定基金 医学部附属病院支援事業への協力をお願い
・禁煙のお願い
- 手術室の新設で、難易度・緊急度の高い手術への対応力を強化。
・令和元年度鶴舞公開講座「自分の力で元気に過ごす～健康管理と医療サポートの活用～」
・健康講座「大腸検査のススメ」
・ボランティアさん募集
・かわらばん HPのご案内

TOPICS ① 炎症性腸疾患治療センター (IBD センター) を新設しました

名大病院では炎症性腸疾患治療センター (IBD センター) を新設し、10月から専門外来で患者さんの診察を開始します。藤城光弘センター長に、センターの内容や今後の展望を伺いました。



内科・外科合同で治療を行う IBD センター

こうした中で、当院は旧帝大の国

原因不明で難病に指定されている炎症性腸疾患 (Inflammatory Bowel Disease: IBD)。腹痛や下痢、血便、体重減少、発熱などの症状に悩まされる消化管の慢性疾患で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病の2種類に分けられます。潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜を免疫細胞が攻撃し、炎症を起こすことで発症します。クローン病も同じく免疫細胞の攻撃により発症しますが、発症部位は大腸のみならず、食道、胃、小腸など消化管全体にわたり、粘膜、粘膜下層、筋層と消化管壁深くまで及ぶことが特徴です。

10〜20代で発症することが多く、患者数は潰瘍性大腸炎が約17万人、クローン病が約4万人 (平成26年度末) と、年々、患者数が増えています。残念ながら原因が解明されていないため完治は難しく、治療は薬や点滴での症状のコントロールが中心です。薬や点滴での治療が難しくなった場合は、病気の部分の切除や膿瘍の除去など外科での治療が必要になります。

原因不明の指定難病、炎症性腸疾患

診療と同時に研究を進め、日本一のセンターへ

立大病院では初めて、消化器内科と消化器外科合同で炎症性腸疾患治療センター (IBD センター) を設立しました。両科の医師をはじめ看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士などがチームを立ち上げ、患者さん中心の医療を展開していきます。

炎症性腸疾患の治療には内科・外科のシームレスな協力が欠かせず、症状に合わせて迅速な対応ができるIBD センターの設立は、患者さんへの質の高い医療の提供につながります。皮膚疾患や糖尿病など合併症の治療においても、当院であれば他の診療科と情報を共有しながら適切に対応でき、患者さんに安心していただけるはずで

今後、当院ではIBD センターを中心に、診療と同時に新たな治療法の研究・開発にも取り組んでいきます。炎症性腸疾患は現在のところ根本治療がなく、新しい治療薬が開発されても個々の患者さんに適した投与の方針が明確に定まってい

質の高い医療提供により患者さんに満足いただくと同時に、先進的な研究を推進することで、いずれば日本一のIBD センターとして当院から医療情報を発信し、炎症性腸疾患の治療・研究をリードしていきたいと考えています。

教えて!

この言葉

PSA (前立腺特異抗原)

泌尿器科長 後藤 百万

健康診断、人間ドッグ、あるいはかかりつけ医の先生から、PSAが高いので泌尿器科を受診しなさいと言われて、当院の泌尿器科へ受診される患者さんは多いのですが、「どうして泌尿器科に行けと言われたのかわかりますか。」と聞くと、「さあ・・・?」という患者さんが少なくありません。PSA (Prostate Specific Antigen: 前立腺特異抗原) は、前立腺 (精液を産生する臓器で膀胱の下にあります。) が産生しているたんぱく質のことなのですが、前立腺がんがあると過剰に産生されて、血液中に増えてきます。従って、血液中のPSAを測定することにより前立腺がんの早期発見が可能になります。血液中のPSAの正常値は4ng/mL以下ですが、4〜10ng/mLはグレーゾーンで、前立腺の炎症や前立腺肥大症などの良性病変でもこの程度に上昇しますが、20%程度の確率で前立腺がんが見つかります。

10ng/mL以上になると前立腺がんが見つかる確率がさらに高くなります。採血をして、PSAを測定することで早期に前立腺がんが見つかるため市町村の老人健診や人間ドッグには通常PSA検査が含まれます。また、名古屋市ではワンコイン検診として検査ができます。簡単な血液検査ですので、男性では、50歳以上になったら、一度PSAをチェックすることをお勧めします。



診療科レポート「歯科口腔外科」

歯科口腔外科長 日比 英晴

歯科口腔外科は歯科と内科の間の領域を受け持っています。歯だけでなく、一般の歯科医院では対応が難しいあごや舌、口の中全体が対象です。また様々な全身的な病気を抱えている患者さんの口腔疾患も対象です。診療内容は、かみあわせの不調和や、歯の欠損、口腔がん、生まれつきの口の形成不全などに対する外科的治療、全身的な病気のため、特別な注意を要する患者さんの歯科治療、入院患者さんの口腔ケアなどです。初診の方はかかりつけの歯科医院や病院から紹介されることが多く、院内でも関連各科と連携

を密にして診療しています。最近はお口が話題になることが多くなっています。特に芸能人の影響は大いようで、同様の心配をされる患者さんがよくいらつしやいます。舌がんの心配だったり、あごの形や歯の出過ぎ、歯茎の見え過ぎだったり、いろいろと悩まれています。そういった悩みがあれば、歯科口腔外科を受診しましょう。特にがんは早期発見が重要ですが、舌がんは初期に痛みを感じることがなく、安易に様子を見ていううちにがんが進行してしまうことがあります。少しでも違和感を感じたら早めの受診をお勧めします。

特集
TOPICS

②

「小さな体に寄り添い守る。最前線で闘う小児医療の現場に光を」

クラウドファンディングプロジェクト目標金額達成のご報告

クラウドファンディングプロジェクト「小さな体に寄り添い守る。最前線で闘う小児医療の現場に光を」が5月31日に終了いたしました。ご寄附をいただきました皆さま、関心をお寄せいただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

3月7日にプロジェクトを開始して、1ヶ月半ほどで670名以上の方よりご支援いただき、目標である2500万円に達成しました。

その後、新たに目標を設定し、ネクトゴールへ挑戦させていただきましたことといたしました。寄附受付期間の3ヶ月を通し、延べ904名の皆さまからご支援いただき、総額36,582,500円のご寄附をいただきました。

皆さまからいただいたご寄附は、「新生児・小児用ドクターカー購入に係るプロジェクト」「小児用医療器具購入に係るプロジェクト」「CT・MRI室の子ども向け装飾に係るプロジェクト」をはじめ、多くの子どもたちに最善の医療が提供できるよう大切にに使わせていただきます。

改めまして、本プロジェクトに関わってくださった全ての方に、病院職員一同より、心から感謝を申し上げます。

この度、1万円以上のご寄附をいただいた皆さま(希望された方のみ)のお名前を以下のとおり掲載させていただきます。(順不同)

呉明超 様	岩山秀之 様	水野泰江 様	津村治男 様
(医) 若葉台クリニック 様	希望無 様	杉野和子 様	通りすがり 様
(医) 森永産婦人科 理事長 森永康文 様	鬼頭登志 様	菅明彦 様	田井中真久 様
(医) 雄峰会 まのウィメンズクリニック 様	吉永享史 様	星野有里佳 様	田枝明子 様
(医) 雄峰会 真野産婦人科 様	吉崎裕美 様	清水俊行 様	田中結 様
(有) 新福祉 様	吉川徹 様	清水隆 様	田中克信 様
〔民間医局〕 株式会社メディカル・プリンシプル社 様	吉村まゆみ 様	西森晃 様	田中亮 様
5E 様	吉田憲司 様	西川英里 様	渡部宋香 様
bebe 様	吉田隆 様	西川功 様	渡辺友莉 様
Dr. Yu Mon Saw 様	久佐賀浩史 様	西川勝嘉 様	渡邊祥美 様
Guys and Dolls 様	共田真紀 様	西尾和幸 様	登坂くるみ つくみ 様
michi 様	郷間環 様	西澤美紀 様	島田直樹 様
shotamos 様	近藤高明 様	税所和博 様	嶋尾正 様
sicu 様	近藤千草 様	石井壽和 様	筒井孝雄 様
Sumida Rinka 様	近藤大貴 様	石原久也 様	藤井和基 様
tamamomotomo 様	近藤明 様	石川千晶 様	藤沼泰造 様
tetsuya.yamada 様	近藤采夏 様	石川桃子 様	内海潤 様
YI Refresh AG 様	近澤敦 様	石部雄紀 様	内田広夫 様
あみーごとし 様	窪田保 様	川井亮佑 様	南部臣一 様
えがお 様	栗田光敏 様	川出芳彦 様	日下摂子 様
えさし 様	原田雅子 様	川田潤一 様	日置末雄 様
かしの木こどもクリニック 様	古川千夏 様	浅井一雄 様	榎村音弥 様
きくち 様	後藤一郎 様	浅井隆介 様	白井良明 様
クリニック ママ 様	工藤穂 様	浅野恵子 様	八木橋信 様
しお 様	溝口文子 様	前田憲吾 様	板津慶幸 様
たむら きょうこ 様	高橋義行 様	前田知里 様	服部和明 様
たむらきょうこ 様	高橋正幸 様	前田要 様	福山貴大 様
チャイルドライフチーム ティンカーベル 様	高橋聡子 様	祖堅由加 様	福田恭史 様
テラダヒデアキ 様	高見昭良 様	早川昌弘 様	福島七美 様
なかよしこどもクリニック 様	黒田武志 様	早田悠人 様	平田慶子 様
ノザキ株式会社 様	今井里佳 様	相田真由美 様	平田武司 様
はつはな 様	今泉駒子 様	足立工業株式会社 様	保浦開 様
はるこ 様	根来恵子 様	村松秀城 様	宝示戸寧子 様
ひいらぎこどもクリニック 様	根来民子 様	村松友佳子 様	望月保延 様
ほその外科小児科 様	佐橋信哉 様	多田勝子 様	北瀬悠磨 様
まっチャントントンさっぴい 様	佐々木美和 様	多田望 様	北林美沙子 様
みどりクリニック 古田啓 様	佐藤嘉平 佐藤美江 様	大垣市民病院 小児循環器新生児科 倉石建治 様	牧田夏美 様
みんなのレモネードの会 様	佐藤義朗 様	大橋愛美 様	本郷明博 様
めぐみ 様	佐藤光晴 様	大橋賢治 様	本康宗信 様
もえみババ・ママ 様	佐藤心春 様	大橋宏之 様	本多ファミリー歯科 本多豊彦 様
ももとかりん 様	佐藤容子 様	大原まゆみ (名古屋学芸大学看護学部) 様	本多真由美 様
やすい小児科 様	佐藤颯汰 様	大林伸太郎 様	名古屋大学医学系研究科 看護学専攻教員 様
阿部真治 様	三井田愛 様	滝良梨子 様	名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター NICU GCU スタッフ クラークー同 様
渥美米朗 様	三浦綾子 様	龍幸子 様	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 中西啓介 様
安田浩明 様	三浦清邦 様	達家孝紹 様	毛利康俊 様
伊東ふじ枝 様	三枝裕幸 様	丹羽祥 様	木許泉 様
伊藤綾野 様	山口聡 様	丹羽和真 様	野崎千佳 様
伊藤綾野 様	山崎瑞生 様	知多おやさいクラブ 様	野村誠二 様
伊藤健介 様	山崎凜 様	池田敬 様	野々村浩光 様
伊藤昌美 様	山川万理子 様	竹森庸陽 様	柳井功雄 様
伊藤知華子 様	山中治 様	竹本康二 様	柳瀬陽一郎 様
伊藤智恵美 様	山田政功 様	中神芳和 様	林三枝子 様
伊藤範子 様	山田智子 様	中川恒夫 様	林芳樹 様
伊藤美春 様	山内太地 様	中村紀子 様	鈴木正良 様
伊澤祥子 様	山本文路 様	中村慎一郎 (株式会社オフィス・テイクワン) 様	鈴木多美子 様
医療法人 杉山会 様	産科婦人科ミナミクリニック 様	中村晴美 様	鈴木祐子 様
医療法人 成田育成会 様	子安春樹 様	中尾吉邦 様	棚瀬高志 様
医療法人医仁会 さくら総合病院 秦誠宏 様	若子静保 様	中野武雄 様	濱田充男 様
医療法人清風会 岡村産科婦人科 様	手計愛子 様	長沼暁生 様	藪恵理 様
井上喜久江 様	酒井一美 様	長澤涼子 様	
磯貝重尚 様	勝野伸介 様		
浦野昌平 様	小野万里子 様		
永田毅 様	小野木宏 様		
櫻本真宏 様	小林佳代 様		
遠藤純江 様	松川裕次郎 様		
塩田華恵 様	松本至代 様		
横井勇鷹 様	上田広夏 様		
横山朝子 様	上野直樹 様		
岡田まり 様	新家一輝 様		
加藤一雪 様	森智弘 様		
加藤英子 様	森田寛子 様		
加藤剛二 様	森田悟 様		
加藤大地 様	森籠史 様		
加藤遼馬 様	森裕一 様		
家田訓子 様	深見英子 様		
河村江里子 様	深見達弥 様		
株式会社トーカイ薬局 様	深見裕康 様		
株式会社パーソナルリング 様	深澤良介 様		
株式会社丸天産業 様	真手尚子 様		
鎌田真由美 様	神戸寛子 様		
関詩織 様	神谷泰子 様		
関本啓 様	水谷由美子 様		
岩根有希 様	水野安映 様		
岩崎英毅 様	水野浩史 様		



Nagoya Disease
ナディック
通信
Information Center



「広場ナディック」について

患者情報センター「広場ナディック」は、患者さん、ご家族が安心・納得して医療を受けることができるように、患者さん自身が医療に関する情報収集をできる場です。病気に関する書籍や映像資料を揃えており、だれでも気軽に閲覧できます。ボランティアさんが運営しており、情報収集の方法について教えてください。治療による脱毛に悩む方へ頭皮ケア相談やウィッグの紹介、また定期的に病気に関する患者さん向け学習会や「患者の集い」なども行っています。多くの皆様のご利用とご参加をお待ちしています。



《場 所》 中央診療棟 A 2階
《利用時間》 平日10時～16時
(年末年始及びゴールデンウィークを除く)



広場ナディック

※学習会や患者の集いの詳細については、院内掲示をご覧ください。

2

名大病院臨床研修医のご紹介

名大病院では現在、医科歯科合わせて35名の研修医が医師としての道を歩み始めています。
新シリーズでは隔回掲載で、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みをご紹介します。



奥田 彩乃（歯科研修医）

研修医は2年間の研修期間があり、私達1年目研修医は、8ヶ月間を歯科口腔外科外来にて、3ヶ月間を開業歯科医院にて、1ヶ月間を麻酔科にて、ローテーションしながら学びます。

歯科口腔外科外来での研修では、先生方の診療を見ながら学び、学んだことを生かしながら自分で診療をすることもあります。また、初診対応や例えば患者さんの口腔内模型等の一部の技工物を製作することも研修医の仕事です。

治療を行なった後に、「具合良くなったよ。」と話す患者さんの笑顔を見るのは、何よりの喜びです。

まだまだ未熟ではありますが、患者さんに喜ばれる歯科医師になるべく、先輩歯科医師のもと日々精進して参ります。



松浦 朱莉（医科研修医）

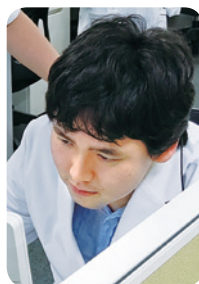
私は現在、1ヶ月ごとに異なる診療科での研修と救急外来での診療を行っています。今月研修している麻酔科では、上級医の先生方のご指導のもと、患者さんが安心して手術を受けられるように前日に麻酔の説明をしたり、手術中の全身管理を行ったりしています。救急外来では、各科の先生、研修医の先輩、看護師さんたちにサポートしていただきながら、患者さんの診察・治療にあたっています。まだまだ未熟で学ぶことの多い毎日ですが、患者さんに寄り添える医師になりたいと思っています。

尾上 晃一（医科研修医）

研修医として、現在は基本的な手技や診療能力の向上に励んでいます。具体的には、点滴の取り方や問診から診断、治療の過程を指導医の監督下で行い、フィードバックを得ながら日々鍛錬し、医学部で学んだ知識を実践に活かせるよう努力をしています。

また、患者さんだけでなく、看護師さんや薬剤師さんなどと協力し合わなければ、良い治療は提供できないことをこの研修で強く感じました。

医師は責任の大きな職業で、学ぶことも多く、大きな熱意をもって医師の仕事に取り組むことが重要だと感じます。



※医科研修医の診療科は執筆当時

定塚 良甫（医科研修医）

現在、精神科で診療を行っております。午前中は初診の方の予診を取り、午後は本診察に同席し、勉強しています。研修で学んだことは、研修医という立場ではありますが、医師免許を持ち、患者さんの命を預かっているという自覚です。一つの判断で患者さんの人生を大きく変えてしまう事を現場で実感しました。医師を目指す者として患者さんの人生をより良いものにするため、日々の勉強を怠らない医療者になりたいです。

JCI※の最高経営責任者のポーラ・ウィルソン氏と他2名が8月8日に当院を訪問され、施設見学、松尾総長および病院執行部とのミーティング、そして同氏による講演会が行われました。同氏が日本のJCI病院を訪問されたことはこれまでに一度もなく、今回の名大病院訪問が初めてとなり、大変に貴重な機会となりました。

※ JCI (Joint Commission International) :
1994年に米国の病院評価機構の国際部門として設立された非営利組織で、「医療の質」と「患者安全」を国際的な基準で評価することを目的とした機関です。厳格な審査基準を有し、世界で最も難易度の高い認証機関として知られています。現在、全世界で1082施設が認定されており、名大病院は、日本の大学病院では4施設目、国立大学病院では初めての認証施設となります。



講演会の様子



JCIの最高経営責任者ポーラ・ウィルソン氏が名大病院を訪問

ミニニュース

「コンサート」を開催しました

中央診療棟A2階ピアノ広場にて、5月8日(水)にピアニストの長屋純子さんによるピアノコンサートを開催しました。
モーツァルトやショパンなどのクラシック曲を演奏していただき、美しいピアノの音色にとっても癒されました。



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます！



中央診療棟Bのご紹介
手術室

手術室の新設で、 難易度・緊急度の高い 手術への対応力を 強化。



年々増加する手術ニーズに対応するため、中央診療棟Bでは手術室が拡張されました。手術室の特徵や増設の効果について、手術部副部長・柴田康之准教授に伺いました。

最先端の手術室や院内環境を整備

当院にはもとも14室の手術室が中央診療棟Aにありましたが、中央診療棟Bに10室を新設し、合計24室となりました。A棟と同様にB棟にも、X線透視化処置と外科手術が同時にできるハイブリッド手術室や、ロボット支援手術室を新設することで、手術への対応力を強化。心臓外科手術に対応した手術室、内視鏡専用手術室も整備しています。

さらに、手術室とカンファレンスルームをつなげ、医師同士がリアルタイムでディスカッションできる環境や、診断に用いるための患者さんの組織や細胞（病理標本）を一括管理できる病理標本作成室も用意され、先進的な院内環境を備えています。

質・量ともに手術への対応力が向上

手術室の増加による効果としては、まず、患者さんの待機時間の改善が挙げられます。より早く手術が行えるようになり、緊急度の高い手術にも迅速に対応できるようになりました。当院は、麻酔科医が全国でトップ3に入ります。B棟の竣工

後、そうした手術がさらに増えていますが、A・B両棟で役割を分けることで集中して対応できるようになり、手術の終了時間が早くなりました。

特に利用が増えているのが、高度で患者さんへの負担が少ない手術が可能で、ハイブリッド手術室です。レントゲン画像で血管内を見つづ、CTやMRIなどの画像も組み合わせ、確認できる最新モニターが導入され、大動脈瘤や癒着胎盤の帝王切開など難易度の高い手術に使用されています。その際は、血管外科、産科婦人科、麻酔科、放射線科、小児外科、消化器内科など複数科が連携し、診療放射線技師や臨床工学技士とも協力して手術や検査にあたっています。

手術後の安全性を高めるために

医療安全の面で大きく前進したのが、10床のリカバリールームの設置です。リカバリールームとは、手術直後の患者さんが、状態が落ち着くまで一旦待機される部屋で、医療先進国ではスタンダードとなっている施設です。これまでは手術後すぐに病棟個室に患者さんをお帰ししていましたが、リカバリールームで術後



ハイブリッド手術室

の様子を観察し、必要なケアをすることで、より術後の安全性を向上させています。

現在、当院の手術数は年間約8,000件ですが、手術室の増設により今後は、その限界を超えて対応することが可能となりました。心臓外科手術などへの対応を増やし、さらに地域の医療への貢献度を高めていきたいと考えています。

健康講座

大腸検査のススメ

消化器内科 医局長 中村 正直

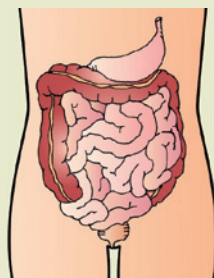
大腸がんにかかる患者さんは増加傾向にあり、早期の発見が重要となります。では、いつ検査をするべきか、また、どのような検査をするのがよいのでしょうか。大腸は1～1.5メートルの長さで腹部の端を一周する形をしており、いずれの部位にもがんは発生します。大腸がんは大腸ポリープの一部が、がん化し、発生することがほとんどであり、大腸ポリープの発生自体は若年化している印象があります。大腸検査を受けるか悩んでいる方には、以下の大腸がんリスクチェックリストが参考になります。大腸カメラは、事前に1～2リットルの腸を

洗浄する水薬を飲んで、腸が空になった状態で肛門から胃カメラとほぼ同様のカメラを最も奥の盲腸まで入れます。その後、引き返しながらかポリープを探します。検査で痛みを伴うことや前処置の水薬の量が多いなどと敬遠されがちですが、昨今は睡眠薬を使って大腸カメラをすることで苦痛が軽減され、水薬の味も改善されています。また、大腸カメラを躊躇される方は大腸カプセル内視鏡、大腸CT内視鏡といった比較的楽にできる他検査も導入されています。どのような検査を選ぶかを含め医師に率直に相談されることをお勧めします。

大腸がんリスクチェックリスト

- ① 糖尿病で10年以上通院している
- ② 肉、油物が好きでよく食べる
- ③ 家族（3親等以内）で大腸がんにかかった人がいる
- ④ 肥満である
- ⑤ 飲酒もしくは喫煙の習慣を20年以上続けている
- ⑥ 複数のほかの臓器でがんをわずらった

以上が1項目でもあれば40歳以上で大腸検査を勧めます。



ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

- ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
「名大病院 ボランティア」で検索♪



今年度の鶴舞公開講座では、食事、睡眠に関する日常生活での心がけ、また医療制度や薬とのより良い関わり方について、名古屋大学医学部・医学部附属病院の各専門家が講演を行います。皆さまお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

開講日時：令和元年12月7日(土)
13時30分～16時30分
会場：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟A 3階 講堂
対象者：一般の方
募集定員：200名（先着順）
受講料：無料
申込締切：令和元年11月22日(金)

【講座内容】

1. 「健康長寿のための上手な食事の食べ方」
2. 「睡眠から考える健康習慣」
3. 「医者まかせにしませんか？
—賢い患者になるために必要な知識—」
4. 「薬剤師が伝えたい薬との上手な付き合い方」

【申し込み方法】

名大病院 HP から受講申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお送りいただくか、はがきまたはE-mailにて「氏名・ふりがな・住所・電話番号・メールアドレス」をご記載の上、お申し込みください。

★本公開講座のチラシ・受講申込書は外来棟各階にも設置しています。

★定員になり次第、受付を終了します。受講いただけない場合のみご連絡申し上げます。

【お問い合わせ・申し込み先】

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部・医学系研究科
総務課総務係 鶴舞公開講座担当 あて
TEL (052) 744-2804/FAX (052) 744-2785
E-mail: iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp

【その他】

駐車場のご用意ができませんので、お越しの際は公共交通機関の利用をお願いいたします。

令和元年度鶴舞公開講座
「自分の力で元気に過ごす
健康管理と医療サポートの活用」

